



■最近の話題

スマート農業に対応した基盤整備促進事業検討会を開催しました

青森県では、水田地域において農作業の更なる省力化を推進するため、ICT等のスマート農業に対応した基盤整備方法の検討や基盤整備からスマート農業機械導入までの一連の取り組み方法（手順）を整理した手引きを県重点事業「スマート農業に対応した基盤整備促進事業(R2～R3)」において作成することとしています。

令和3年7月15日に開催した検討会では、農作業の省力化につながる簡易な基盤整備の検証結果として、ターン農道^{※1}や耕区間等移動通路^{※2}を活用した際の作業時間等の縮減効果を確認しました。特に、耕区間等移動通路を設置した場合、排水路を横断して隣接耕区への移動を容易に行うことができ、各作業での移動時間を縮減できました。

また、「スマート農業に対応した基盤整備の手引き」構成案の検討では、具体化に向け、学識経験者や土地改良区、生産者等から構成される委員から多くの意見をいただきました。

今後は、令和3年度内に生産者等を対象とした説明会の開催や手引きの配布を行い、スマート農業に対応した基盤整備の普及啓発に努めることとしています。

※1 ほ場外で農業機械が旋回できるように設けたスロープ

※2 水路等を横断し容易に隣接する耕区等へ移動できる通路



検討会の様子

植栽活動コンテストの最優秀賞が決定しました

令和3年9月2日、青森県多面的機能支払推進協議会（事務局：水土里ネット青森）が主催する「令和3年度多面的機能支払交付金植栽活動コンテスト」の審査会が行われました。このコンテストは、多面的機能支払交付金に取り組む活動組織が、各々創意工夫し、楽しみながら農村地域の良好な景観づくりを行っている様子を、広く一般県民にも知ってもらうことを目的に開催されています。

今年度は34組織から応募があり、事前審査を通過した17組織で審査が行われた結果、花壇のデザイン性や農村環境との調和等で評価の高かった蓬田村の「長科地域水土里保全隊」が最優秀賞に選ばれました。その他の受賞作品は同協議会ホームページで確認できるほか、花壇の場所がホームページ上に掲載されているため、気になる方は現地に足を運び、鑑賞してみたいはいかがでしょうか。

（青森県多面的機能支払推進協議会HP：<http://www.aohozen.jp/>）



長科地域水土里保全隊の花壇（最優秀賞）

■「環境公共」事例紹介

中道地区(下北郡佐井村) ～カシス栽培の拡大に向けて～

1 村の概要

下北半島の北西部に位置する佐井村は、ウニやヒラメをはじめとした水産物や、国の天然記念物である「北限のサル」の生息地として知られています。一方、農業については、自給的農家が全体の80%以上を占めており、高齢化や担い手不足による耕作放棄地の増加、サルの食害などの問題に悩まされてきました。

2 今後の取組方向

佐井村では、令和元年から耕作放棄地を活用したカシスの栽培が進められています。冷涼な気候で積雪が少ないため、栽培に適しているほか、サルによる被害も報告されていないことから、地域の新たな産業として期待されています。

現在、カシス栽培が行われている中道地区では、担い手への農地の集積・集約化を推進し、栽培面積の更なる拡大を目指すため、令和5年度から農地中間管理機構関連農地整備事業を活用したほ場整備を予定しています。令和3年3月22日には、調査計画に先立ち、地区推進協議会を設立しました。本協議会では、農地の所有者、生産者、村等と事業構想や営農計画、集積計画について話し合いを進めていきます。

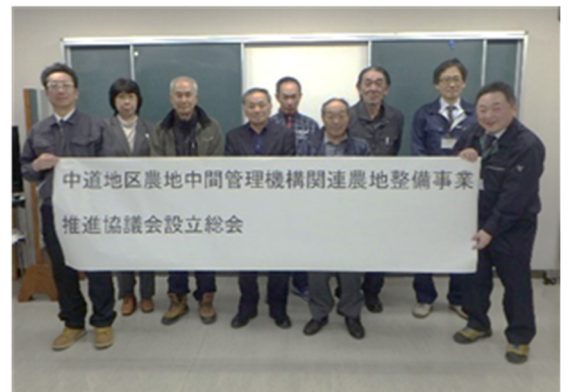
また、村では、収穫されたカシスを冷凍するため、使用されなくなった農業研修センター（冷凍設備）を生産者へ貸し出す取組を行っています。今後は、本センターを冷凍作業だけでなく、加工場としても活用していく予定としており、行政と生産者が一体となってカシスの栽培・加工に向けて取り組んでいくこととしています。

さらに、今年度は、地元の保育園児を対象としたカシスの収穫体験も実施しており、園児たちの農業に対する理解や関心を高めるとともに、地域の人々が交流する良いきっかけにもなりました。

佐井村での取組はまだまだ始まったばかりですが、今後も事業の進捗や地域づくりの様子などを様々な場面で積極的に発信していきます。



カシスの栽培状況



協議会設立総会



カシス冷凍設備（農業研修センター）